

健診における乳腺、甲状腺の同時超音波検査の有用性について

佐々木智子、小林みち子、松崎 順子

宮本亜矢子、判 由佳、高橋 秀史

札幌社会保険総合病院検査部

佐藤 理子 関谷 千尋

健康管理センター

前田 好章、中島 信久、松岡 信一、秦 温信

外 科

key words : 乳癌検診、超音波健診、乳癌、甲状腺

要 約

2000年10月より2001年3月までに、当院の健康管理センターにて、乳癌検診を受けた821名に、医師の視触診に引き続き、リアルタイム甲状腺および全乳房超音波検査を併用した。

乳腺超音波検査において、1例視触で触知不能な9.4×8.6mmの乳癌を発見した。

乳癌検診において、乳腺・甲状腺超音波検査を併用することにより、乳癌診断においての超音波検査の有用性が示唆された。

はじめに

乳癌検診において、超音波検査を用いる施設は増加している¹⁾²⁾が、いまだ一定の見解は得られていない。今回、我々は従来の視触診に乳腺、甲状腺の同時超音波検査³⁾を併用し、その有用性を検討したので報告する。

対象と方法

1) 対象

2000年10月より2001年3月までに、当院の健康管理センターで乳癌検診を受けた821名である。

2) 方法

医師の視触診に引き続き、インフォームドコンセントを得て、リアルタイム甲状腺および全乳房超音波検査を無料(院内研究助成金による)で実施した。

超音波診断装置はアロカSDD-1200CV、プローブは7.5MHzリニアプローブを用いた。検査は超音

波検査経験1年以上の検査技師5名で実施した。

結 果

乳腺腫瘍影は22名(2.7%)にみられ要精検となった。その内訳は乳癌1名、乳腺症12名、嚢胞5名、他院に通院中2名、追跡できなかった人2名であった。(表1)。1例視触診で触知不能な9.4mm×8.6mmの乳癌を発見した(図1)。本症例の病理組織結果は、硬癌であり、リンパ節転移は認めなかった。

一方甲状腺腫瘍影は91名(11.1%)にみられ要精検となった。その内訳は良性腫瘍49名(腺腫様甲状腺腫28名、腺腫様結節7名、嚢胞12名、その他2名)、経過観察中2名、他院で治療中6名、異常を指摘されなかった人8名、2次検査を受けていない人3名、追跡できなかった人23名であった(表2)。乳腺、甲状腺腫瘍影として要精検をなしたのは、合計112名(13.6%)であった。

1名は乳腺と甲状腺両方で、要精検となった。

表1 乳腺腫瘍影(22名)の概要

乳 癌	1名
乳腺症	12名
嚢 胞	5名
他院に通院中	2名
追跡できなかった	2名

図1 乳癌の超音波像

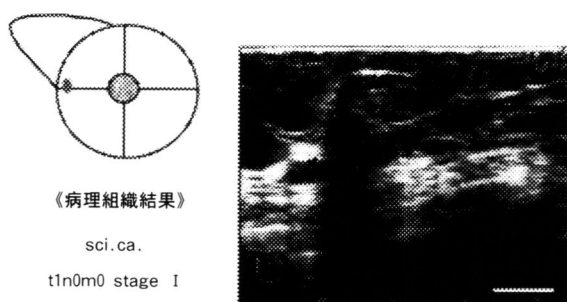


表2 甲状腺腫瘍影(91名)の概要

良性腫瘍	49名
腺腫様甲状腺腫	28名
腺腫様結節	7名
嚢胞	12名
その他	2名
経過観察中	2名
他院に通院中	6名
異常を指摘されなかった	8名
2次検査を受けてなかった	3名
追跡できなかった	23名

考 察

乳癌検診には、マンモグラフィ併用による有用性が報告されている⁴⁾が、放射線被曝の問題がある。超音波検査は非侵襲的であり、かつ小さな乳癌が早期に発見されることもある。このメリットは、治療成果を上げるばかりでなく、患者のQOL向上にも寄与すると考えられる。

一方、甲状腺の超音波検査では、手術対象となる悪性腫瘍はなかった。CT検査の結果において、悪性腫瘍を否定できなかった例は2例あり、精密検査および経過観察が必要とされた。

乳癌検診において、超音波検査を併用することにより、視触診において判明できなかった乳癌1例を発見できた。これにより、乳癌検診における超音波検査の有用性が示唆された。

今回の検討においては、発見された1例の将来的な経過を含めた費用対効果は明らかでないが、今後例数を蓄積することで、乳腺・甲状腺の同時超音波検査の有効性は判明していくと思われる。

【文献】

- 1) 矢田功、玉木康博、増田慎三、他：乳癌検診における超音波検査の有用性についての検討、日乳癌健診学会誌、9：225-229、2000。
- 2) 東野英利子、井出早百合、柴田喜美江、他：乳癌検診における超音波検査の有所見率の検討、日乳癌健診学会誌、9：231-235、2000。
- 3) 伊藤勅子、小松大介、小山洋、他：人間ドックにおける甲状腺癌検診の成績、日臨学会誌、63：1853-1856、2002。
- 4) Ohuchi N, Yoshida K, Kimura M, et al: Improved detection rate of early breast Cancer in mass screening combined with Mammography. Jpn J cancer Res. 84: 807-812, 1993.
- 5) 難波清、渡辺良二、古澤秀実、他：49歳以下の乳癌検診におけるマンモグラフィ/超音波検査併用健診の重要性の検討、日乳癌健診学会誌、11：172-177、2002。

The value of simultaneous ultra-sonographic
examination of both the thyroid glands and the breasts
in the health examination.

Tomoko SASAKI, Michiko KOBAYASHI, Jyunko MATUZAKI,
Ayako MIYAMOTO, yuka BAN, Shuji TAKAHASHI
Department of clinical Laboratory, Sapporo Social Insurance General Hospital

Michiko SATO, Chihiro SEKIYA
Health Examination Center, Sapporo Social Insurance General Hospital

Yoshiaki MAEDA, Nobuhisa NAKAJIMA,
Sinichi MATUOKA, Yoshinobu HATA
Department of Surgery, Sapporo Social Insurance General Hospital

From October 2000 to March 2001 at Health Examination Center in the Sapporo Social Insurance General Hospital, 821 women underwent ultrasonographic examination of both the thyroid glands and the breasts.

After the conventional physical examination including inspection and palpation by a doctor, an ultrasonographic examination was performed by a technician in the clinical laboratory department. The ultrasonographic examination for the breast revealed a case with non-palpable breast cancer mass with a size of 9.4×8.6mm.

We confirmed the effectiveness of ultrasonographic examination in combination with conventional physical examination in mass screening for breast cancer.